



手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

第12回支援活動の記録 2017年4月28、29日 (福島県南相馬市)



これまでの活動実績 **手づくりの器、約1万8000個を提供！**

2011年7月	山田町(4000個を提供)
2011年12月	大槌町/釜石市(2700個を提供)
2012年7月	陸前高田市(3000個を販売、全売上を寄付)
2012年12月	気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄付)
2013年6月	東松島市(1100個を販売、全売上を寄付)
2013年12月	石巻市(600個を販売、全売上を寄付)
2014年3月	石巻市(700個を販売、全売上を寄付)
2014年7月	南三陸町(600個を販売、全売上を寄付)
2015年2月	名取市(1500個を提供、全売上を寄付)
2015年9月	七ヶ浜町(700個を提供、全売上を寄付)
2016年3月	亘理町(650個を提供、全売上を寄付)
2017年4月	南相馬市(800個を提供、全売上を寄付)

募金総額 : 5,522,220円
被災地への寄附金 : 2,305,160円(チャリティー陶器市の全売上)

手づくり支援プロジェクトとは

私たちは震災直後から東北の被災地で栃木の名産である**益子焼などを提供する陶器市イベントを開催**してきました。避難所で多くの方々がサランラップを敷いた発泡スチロールの食器で食事をしている姿をTVでもよく見たと思います。私たちの職場でも震災後しばらくは発泡スチロールの器を毎日洗いながら再利用し、日に日に変形劣化してゆく容器で、冷たい味気ない食事をしていました。被災地での辛さとは比べようになりませんが、自分たちでさえこのような辛さを感じていました。

その後、徐々に仮設住宅ができ、避難所から仮設住宅に入居が始まりましたが、仮設住宅には基本の食器のset(飯椀、湯呑、小皿など)はありますが、数や種類は少なく、すべて量産品の画一なもので、まるで病院の食器のように感じました。

栃木にいる私たちが地元東北の為に何ができるだろう、といういろいろ考えましたが、栃木も益子や芳賀など多くの被害があり、友人に被害を受けた益子の陶芸家も多くいたこともあり、栃木と東北を両方支援できたらと、社内、関連メンバー、益子の陶芸家たちとこの支援活動をスタートさせました。仕組みは一般の募金(個人や協賛店)で器を購入し、それを私たちが直接被災地へ届けるというものです。一般の方々、お店、作家の協力により、お金は栃木、益子に循環させ、器を東北へという流れで双方を支援する形をとっています。器は生きる基本である「食」に彩りを与え、復興に向けた毎日の生活の中で少しでも明るく元気になるような一助になってもらえたらという想いでこの活動を行っています。

↓陶器市や協賛店でのフライヤー(現在)

手づくりの器を被災地へ届けよう!

一般/協賛店支援 募金/募金箱設置

手づくりの「器」は、生きる基本である「食」に彩りを与えます。そんな「器」で、復興に向けた毎日が少しでも明るく、元気になってもらえたら、という想いで活動しています。

作家による支援 食前提供(益子焼cup)

支援金 手づくり支援プロジェクト 器購入

栃木在住の東北出身のみなさん、会社員による運営(広報活動/募金活動推進/定例)の制作

被災地での配布 陶器市イベント

・支援金の提供(寄付、協賛店の募金協力)

・上代の3割での提供

・B品/半端品などの無償提供

・陶器市での募金推進協力

これまでの活動実績! 手づくりの器約1万4000個を届けて!

2011年7月 山田町(4000個を届けて)

2011年12月 大塚町 釜石市(700個を届けて)

2012年7月 陸前高田市(3000個を届けて、全売上を寄附)

2012年12月 気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄附)

2013年6月 東松島市(1100個を販売、全売上を寄附)

2013年12月 石巻市(600個を販売、全売上を寄附)

2014年3月 石巻市(700個を販売、全売上を寄附)

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
http://handmade-project.info/

◎支援金の口座 銀行振込
定例銀行 野村総合銀行(株) 32303334
口座名義 手づくり支援プロジェクト

活動の軌跡

2011 3月末 岩手出身の光房みちが友人の陶芸家 本川カワカオリ氏に本支援プロジェクトを相談、友人の約20名の作家の賛同を得てスタート 矢川士郎氏、矢川杏子(筆作家)氏も参加し、募金活動のノベルティグッズを考案

サバイバル用のホイッスルに「二度と使うことがないように」と願いをこめて、手づくりで革のカバーに器の焼印を一つ一つ入れ製作

4月 同郷の小向麻子氏も加わり、HP製作、法人口座開設 益子春の陶器市での協力作家への呼びかけ、募金開始

「手づくり支援プロジェクト」は 被災地へ手づくりの器を届ける支援活動で、一般の方々からの支援と、モノづくり作家による支援の、両方による東北支援活動です。現在、約60の協賛店、90名以上の作家が参加してくださっています。

手づくり支援プロジェクト(協力作家、協賛店など)

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力など)

Company	Food
ジョイム株式会社	pain de musha musha and coffee
Masa	パン屋 町屋堂
ソフトバンク	ほんとおかし ナン
ソフトバンクグループ	食工 RND-HA
ソフトバンクモバイル	くらかつ肉太郎
ソフトバンク通信	Tavarna Sakurai
ソフトバンクエディ	朝野園
ソフトバンクエディ	パン・クリストフォロ
ソフトバンクエディ	Conifers
ソフトバンクエディ	Bistrot Mail-Melo
ソフトバンクエディ	TORATTORA da RIBOSA
ソフトバンクエディ	らーめん 藤原家
ソフトバンクエディ	気の社 都本
ソフトバンクエディ	PESCA-COCCA
ソフトバンクエディ	salon kokoro
ソフトバンクエディ	minco(理理亭)
ソフトバンクエディ	UtopiaCoco
ソフトバンクエディ	hair Labo natura
ソフトバンクエディ	Piccole Manica HAIR
ソフトバンクエディ	seal hair work

・協力作家(名前順)

岩崎あゆみ	田原香子	藤原まゆ	中村かおり	遠藤あゆみ	宮城あゆみ
久保あゆみ	山田あゆみ	山田あゆみ	成田あゆみ	宮城あゆみ	宮城あゆみ
伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ
伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ
伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ	伊藤あゆみ

本ボランティア活動に、ぜひみなさまのお力を お貸しください!

・ご寄付 ほんの気持ちで構いません、小さな力も集まれば大きな力になります!

・募金箱、募金促進グッズ設置の協力 お知り合いのお店やギャラリーなど、設置協力にぜひお声を掛けてください。

5月 協賛店への募金箱、グッズ設置協力依頼開始 提供場所検討開始、山田町役場と相談

6月 現地視察、自治体ボランティアセンターにて打合せ 27日、NHK「首都圏ネットワーク」で「いっとろっけん」で紹介される

7月 1日、NHK-FMで放送 21~24日第一回陶器市開催(岩手県 山田町) 22日、毎日新聞に掲載 29日、NHK「首都圏ネットワーク」で開催の様子を放送

2013 3月 「ソトコト3月号」に掲載 4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め 7日、下野新聞に掲載 7~9日、第五回陶器市開催(宮城県 東松島市) 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め 12月 14~15日、第六回陶器市開催(宮城県 石巻市)

2014 3月 16日、第七回陶器市開催(宮城県 石巻市) 7月 26日、第八回陶器市開催(宮城県 南三陸町)

2015 2月 28日、第九回陶器市開催(宮城県 名取市) 1日、毎日新聞に掲載 9月 13日、第十回陶器市開催(宮城県 七ヶ浜町)

8月 3日、NHK「おばんですいわて」岩手でも放送 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め 12月 10日、第二回陶器市開催(岩手県 大槌町)

2012 3月 14日、下野新聞に掲載 4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め 7月 14~15日、第三回陶器市開催(岩手県 陸前高田市) 15日、岩手日日新聞に掲載 17日、三陸経済新聞に掲載 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め 12月 8日、第四回陶器市開催(宮城県 気仙沼市) 23日、下野新聞に掲載

南相馬市について

南相馬市は福島県の北東部沿岸に位置する、人口約5万6000の市です。7月に開催される相馬野馬追(そうまのまおい)が有名で、毎年多くの観光客が訪れます。東日本大震災では町の面積の約10%が浸水し、また、福島第一原発から20~30km圏内にあたり、多くの住民が避難を余儀なくされました。

- 被災状況(市公表データ)
 - 死亡者数 636人(津波による直接死)

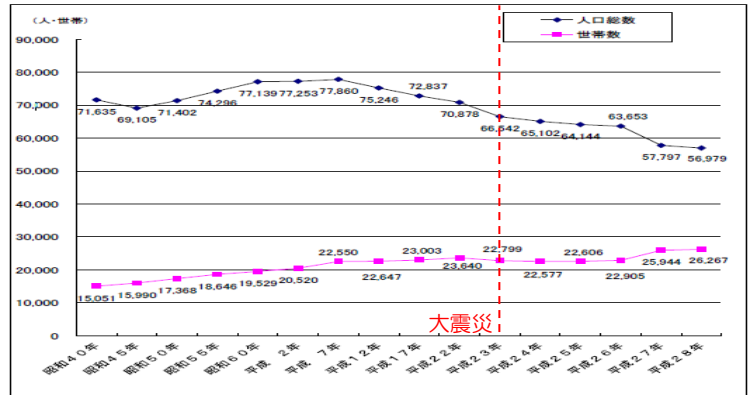
- 被災棟数の内訳(2012/12/14市データ)

全壊	半壊/大規模半壊	一部破損
1228棟	686棟	2301棟

- 世帯数、人口の変化

	世帯数	人口(人)
震災前(2010/12)	23640戸	70878
現在(2016/10)	26267戸	56979

世帯数は増加していますが、人口は平成7年をピークに減少、市外への避難者が多いため人口の減少分が多くなっています。



- 南相馬市の被災の特徴(市資料より)

14時46分の地震で南相馬市では小高区、鹿島区、原町区高見町で震度6弱、原町区本町、原町区三島町で震度5強の揺れが観測され、南相馬市にもっとも近い相馬の観測点では、14時55分に0.3mの第一波(押し)を観測、最大波は15時50分の9.3m以上となっています(気象庁資料)。津波による被害面積は、小高区10.5km²、鹿島区15.8km²、原町区14.5km²であり、全体で40.8km²、市域の約10%に及んでいます(下表参照)。

東京電力株の原子力発電所が立地する檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町では震度6強を観測。また、地震に伴う津波により、福島第一原発では基準水面に対し約15m、福島第二原発では約7m浸水。地震により運転中の原子炉は緊急停止したものの、地震および津波により施設が損壊し、外部電力も絶たれ、炉心冷却機能不全に陥ったため、炉心溶融が生じた。その後、1号機、3号機、4号機の建屋が相次いで爆発により破損、国際的評価尺度で「レベル7」とされる大事故となりました。



■福島第一原発の位置図



■主要施設の配置図

■津波による被害面積 (単位: km²)

区	地区	面積
小高区	塚原~角部内地区	5.6
	井田川~浦尻地区	4.9
	小計	10.5
鹿島区	八沢地区	5.0
	南海老~烏崎地区	10.8
	小計	15.8
原町区	金沢・北泉地区	1.6
	泉~雫地区	9.1
	小浜~小沢地区	3.8
	小計	14.5
合計		40.8

資料: 南相馬市復興計画
南相馬市(平成23年4月8日現在)

5. 仮設住宅

鹿島区、原町区に18の仮設住宅団地、計2144戸を建設しています。旧避難指示区域(下図参照)に指定された世帯以外は、平成29年3月31日で終了しましたが、旧避難指示区域に指定された世帯で、現在も避難を継続している世帯は、平成30年3月31日まで延長が決定しています。

災害公営住宅は市内に10団地、350戸の災害公営住宅を建設する計画で、昨年度ですべて完成し入居がなされています。

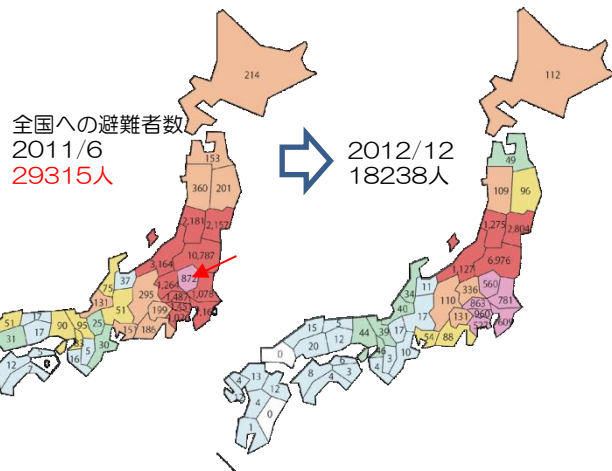
6. 避難の状況(市データ)

震災直後の6月には全国に29000人ももの市民が避難していましたが、現在では11000人に減っています。南相馬市は北から鹿島区、原町区、小高区で構成されており、小高区の避難指示は昨年7月に解除されましたが、2月の時点で帰還者は9,333人中1,132人で、地元に戻ることを決意する人の数は限られていることがわかります。

下表にあるように住民の約4割が自宅以外のところに転居していることがわかります。市内の除染作業も進み、事務所を解体する地区も出てきましたが、依然として地域の人々は放射能への懸念を拭えない生活を送っています。

(2017/3/30現在 市データ)

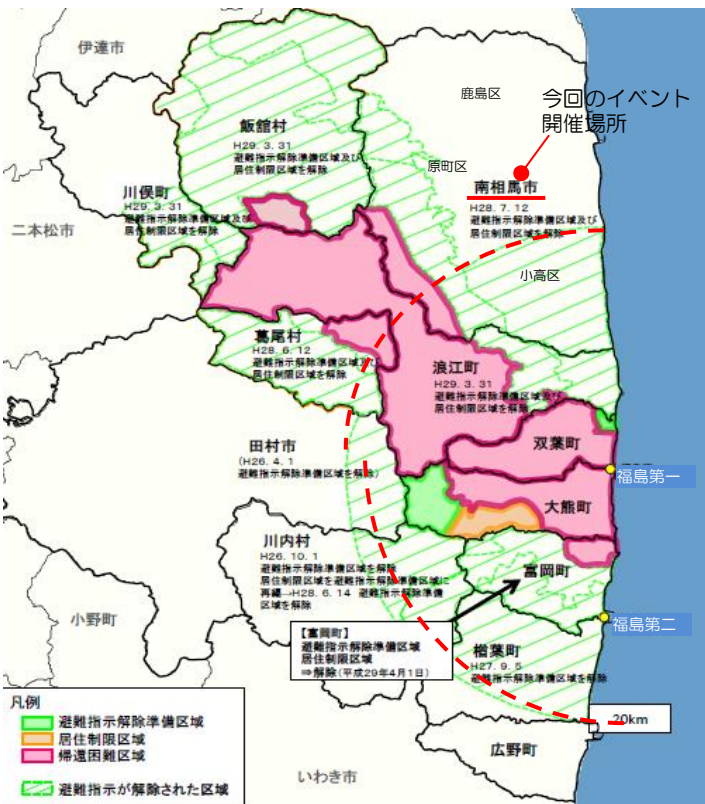
市内居住者	自宅居住	35,361人
	市内の知人宅や借上げ住宅等	3,018人
	市内の仮設住宅	1,780人
	市内転居	7,031人
計		47,190人
市外避難者	市外の知人宅や借上げ住宅等 (うち福島県外)	8,023人 (4,787人)
	計	8,023人
その他	死亡(震災以外の死亡含む)	5,455人
	転出	10,884人
	所在不明	9人
	計	16,348人



※栃木県へ避難された方は2011/6時点で872人、2017/3現在では308人になっています。今回陶器市でも栃木(鹿沼、真岡)に避難していたよ、という方々が何人も声をかけてくださいました。

	平成23年3月11日 現在の人口	平成29年3月30日 現在の居住者数	備考
小高区	12,842人	1,329人	帰還困難区域 旧居住制限区域 旧避難指示解除準備区域
鹿島区	11,603人	11,996人	
原町区	47,116人	43,503人	一部旧居住制限区域 一部旧避難指示解除準備区域
計	71,561人	56,828人	他市町村からの避難者2,845人

避難指示区域の状況(福島復興ステーションより)



今回イベントを開催した原町区は福島第一原発から約25km圏にあります。原町区の一部と南部の小高区は左図(斜線部)にあるように、昨年の7月に避難指示準備区域、居住制限区域を解除されました。

■各区域の基本的考え方と対応・運用内容

名称	区域の基本的考え方	対応・運用内容
警戒区域	福島第一原子力発電所の半径20km圏内	緊急事態応急対策に従事する者以外の者に対して、市長が一時的な立入りを認める場合を除き、立入りを禁止し、または退去を命ずる
計画的避難区域	福島第一原子力発電所の半径20kmから30km圏内で、事故発生から1年間に積算線量が20mSvに達する恐れのある区域	原則としておおむね1月程度の間(平成23年4月22以降)に順次当該区域外へ避難のための立退きを行う
緊急時避難準備区域	屋内退避区域(20kmから30km圏内)のうち、計画的避難準備区域を除いた区域	常に緊急時に避難のための立退き又は屋内への退避が可能となる準備を行う
避難指示解除準備区域	年間積算線量20mSv以下となることが確実であることが確認された地域	・主要道路における通過交通、住民の一時帰宅(ただし宿泊は禁止)、公益目的の立入りなどを柔軟に認める ・製造業等の事業再開、営業の再開、これらに付随する保守・修繕、運送業務などを柔軟に認める ・スクリーニングや線量管理など防護措置は原則不要
居住制限区域	年間積算線量が20mSvを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する観点から引き続き避難の継続を求める地域	・基本的に計画的避難区域と同様の運用を行う ・住民の一時帰宅(宿泊は禁止)、通過交通、公益目的の立入り(インフラ復旧、防災目的など)などを認める
帰還困難区域	5年間を経過してもなお、年間積算線量が20mSvを下回らないおそれのある、平成24年4月時点で年間積算線量が50mSv超の地域	・区域境界において物理的防護措置を実施し、住民に対して避難の徹底を求める ・可能な限り住民の意向に配慮した形で住民の一時立入りを実施。スクリーニングを確実に実施し個人線量管理や防護装備の着用を徹底する

南相馬市での陶器市開催

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、毎回チャリティー陶器市という形で開催しています。今回は南相馬市の原町商店連合会が主催する「第14回春の市民まつり」のなかで、陶器市を開催しました。

イベントのポスター

このイベントは年に1度開催され、地域の様々な産業と市民団体が力を合わせ、地域市民がともに集い、ふれあいと賑わいのある街づくりを通して地域の活性化を促すことを目的として行われています。

私たちは今回も県内外の多くの作家さんから提供いただいた器(約2500点)を現地へ運び、色とりどりの器で陶器市を開催しました。また今回も昨年度に続き、支援にご協力いただいた、ポーセラーツ協会のインストラクターの方々、生徒さんのポーセラーツ作品(磁器)を全国から提供いただき、このイベントの中で地元の方々へ無償提供させていただきました。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、陶器市を開催しています。

メンバーの活動風景 4月28日(金) 出発



・AM9:30 器を保管していただいている宇都宮のレストランNORAさんに集合。これまで準備した器(約2500個)を梱包したコンテナを車へ積み込みます。今回も全国各地(東京、神奈川、兵庫、鹿児島など)のポーセラーツ協会の方々からの器も届き、コンテナに移し替えて現地へ運びます。行程のブリーフィングを行い、出発しました。(初日は計4台の車、7名で現地入り)

現地までの様子

南相馬までは常磐道で行きましたが、途中の大熊町、双葉町は帰宅困難地域のため、震災直後と同じ様な景色が続いていました。家屋の屋根には瓦をカバーするシートが張られたまま、窓は割れたまま、時間が止まったような感じでした。一方、放射性廃棄物の黒いシートのかかった仮置き場(黒いピラミッド：プレコンバック)があちこちに見られ、今後これが増え続けるのか(一体どこに置くのか)と思うといたたまれない気持ちになりました。常磐道には放射線量のモニターが設置されていて、6年経った現在でも高いところでは $3.4 \mu\text{Sv/h}$ を示しており、厳しい現状を目の当たりにしました。



・空間線量を示すモニタリングポストは常磐道にいくつか設置されていましたが、富岡町と双葉町の境界あたりで急に高くなり、この日の最高値で $3.4 \mu\text{Sv/h}$ を示していました。常磐道には広野ICから南相馬ICまでの49.1kmを時速70kmで車で1回走行した場合の被ばく量が $0.37 \mu\text{Sv}$ と概算で掲示されているようです。

PM12:30 宇都宮から約240km、現地へ到着。会場は原ノ町駅前からの大通りです。この日は明日のイベントでお世話になるまちなかひろばさんにご挨拶をし、テントやテーブル、什器運び出しの準備を行いました。まちなかひろばさんは地元の販わいを創出する場、市民の台所として地域に根付いた市場で、地元の野菜などを販売もしています。販売する農産物や食品の放射線量を計測する装置などを実際に見せていただき、現状を教えていただきました。我々の提供する陶器も震災直後は釉薬に使われる灰や薪による放射性物質が懸案になり、計測を行ったりしたのを思い出しました。

4月29日(土) 南相馬市：春の市民まつりでの陶器市開催

JR原ノ町駅前通りと旭公園にて地元の名産販売や商工会議所のイベント、ライブなどが行われました。当日の朝は風は強かったものの快晴で、今回も絶好のイベント日和となりました。

開催の様子①



・朝7時すぎ、会場でのテント設営を開始。朝到着のメンバーも合流し、合計17名。器のコンテナを降ろし、総動員で準備を行いました。コンテナから器を出し、梱包を解いてアイテムごとに並べます。梱包用の新聞紙、袋の準備なども行い、看板も設置。風対策も行いましたが、夕方から雨の天気予報がちょっと心配です。



・9時半、我々のディスプレイもほぼ終了、今回も益子焼、ポーセラーツ含め約100名もの作家さんの素敵な作品たちが並びました。メンバーで段取りの最終確認を行い、チャリティー陶器市の開催です。



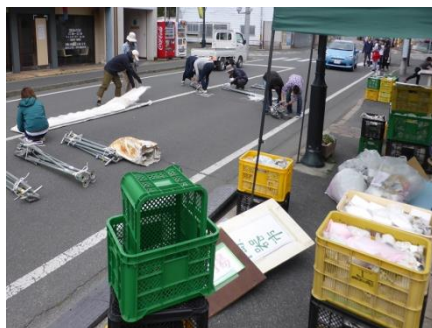
・開始直後から多くの地元の方々がいらしてくれました。10時過ぎから来場者数が多くなり、あっという間に2張のテントがいっぱいになりました。



・今回も小学生の子供たちがチャリティー陶器市の案内をしてくれました。南相馬では復興住宅への引っ越しが進んでいるためか、揃いの茶碗や湯呑などセットで欲しいという方が多く、特に今回は飯碗などの揃いで購入される方が多くみられました。梱包メンバーも大忙しでした。



・ポーセラーツの作品はチャリティー陶器市でお買い上げいただいた方々へ、今回も無償で提供させていただきました。陶器とはまた違った華やかさで非常に人気が高く、購入したい！と言われる方も多く、皆様にとっても喜んでいただきました。



・器を入れたコンテナを車に積み込み、テントを片づけます。片付けの最後に急な雨に降られましたが、何とか終了。事務局、まちなかひろばさんに挨拶をし、午後5時半、集合写真を撮って現地のミッション終了です。

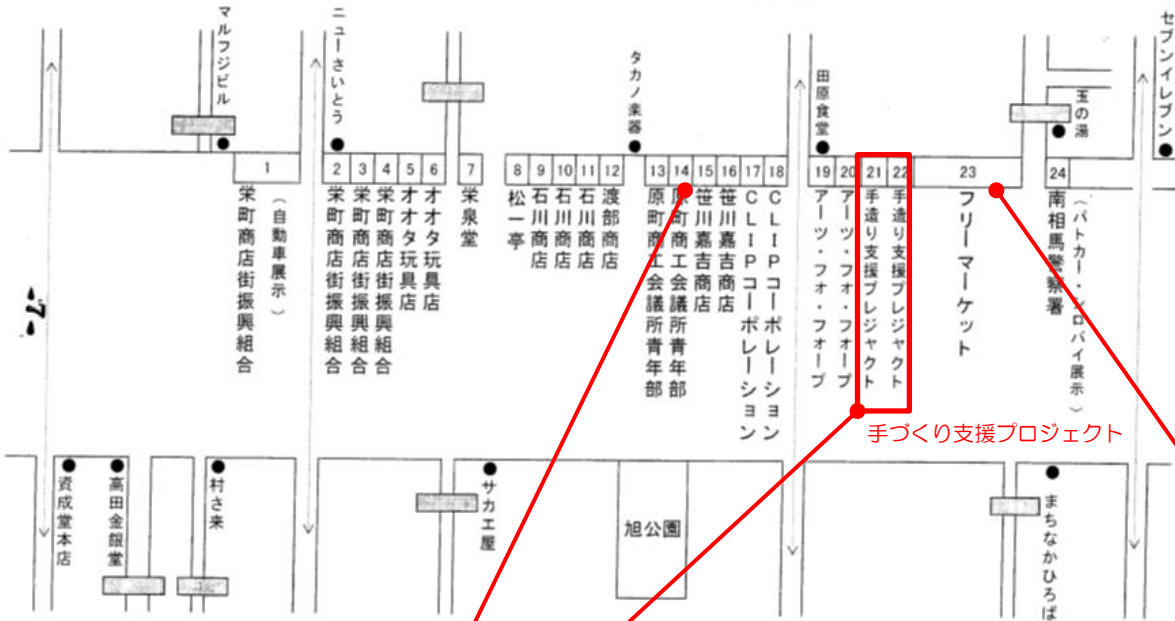
今回もチャリティー陶器市に多くの地元の方がいらして下さいました。会場では「栃木に避難していたよ」と声をかけてくださる方が何人もいらして、つながりの深さを改めて感じました。器もやはり揃えのニーズが高く、災害公営住宅での新しい生活を伺い知ることができました。福島はこれまでの岩手・宮城と異なり、原発の被害もあるため、街や人はどのような雰囲気なのかとても不安でしたが、まちなかひろばや事務局の方々をはじめ、南相馬の方々はとても明るく人情味のあふれる方ばかりでした。

イベントレイアウト

原ノ町駅の駅前通り、旭公園でこのイベントは行われました。我々手づくり支援プロジェクトはこの駅前通り(歩行者天国)に設営し、多くの方々が来場しました。今回もテントは2張(2間3間)で器をディスプレイしました。

駅通りレイアウト図

平成29年4月29日



開催の様子②

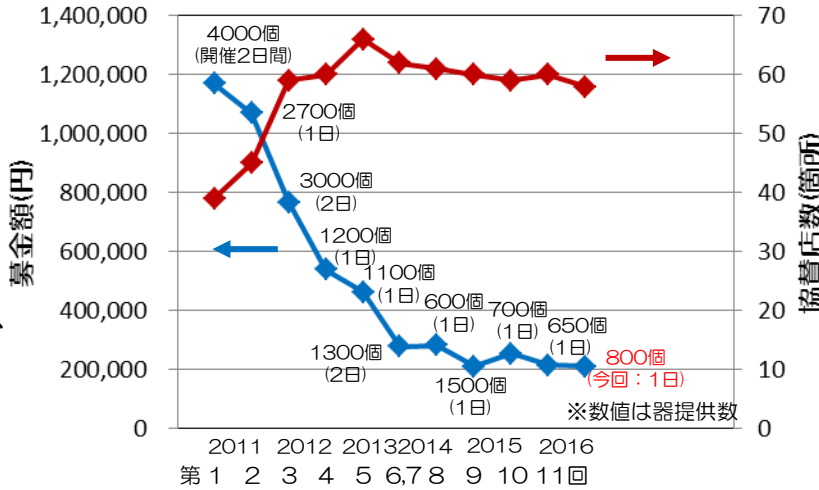


・歩行者天国としてメイン通りを封鎖し、多くの屋台が立ち並び、我々の陶器市、フリーマーケット、地元警察の白バイ・パトカー展示と並んでいます。午後にはこの通りで阿波踊りのイベントも行われ、多くの人々でにぎわいました。

震災からまる6年、様々な変化について

この6年間で東北の被災地に約18000個(無償やチャリティー販売)の器を提供し、売上(計230万円)を全て寄付してきました。それらは仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき、喜んでいただいています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの協力のもと、無償提供いただく器の割合も増えて、毎回約2500~3000個の器を準備し現地へ持ってゆることができています。

南相馬市でも計画の災害公営住宅は全て完成しているため、陶器市では新しい住居で用いる器のニーズが多く聞かれました。新しく家族を呼び戻しての生活、収納スペースも仮設時と比べ格段と増え、家族人数分の揃えの器が欲しいという声、求める器の種類も長皿や小、中鉢など、これまで以上に多様なニーズが増えてきています。また、前回同様にこれまでニーズが落ちていた、茶碗や湯呑を買い求める方々が多く、今回飯碗が特に多く出ました。こちら新しい生活を送るうえで新規に揃えたいという心境の方々が多かったのかもしれませんが。今後もこれらの現地の声をもとに、ニーズに応えてゆけるように準備をしてゆきたいと思いません。



手づくり支援プロジェクト募金額と協賛店数推移

募金に関してはこれまで同様に減少方向ですが、あらたな募金促進グッズの製作やさまざまなイベント活動を行い、維持してゆこうと考えています。あらたなグッズとしては革のキーホルダー、カードケースやペンケースなど(写真)を製作しています。また、これまでの支援活動を報告するPRイベントでの物産販売、岩手などの県人会での活動PRなども継続的に行っています。協賛店では新たな価値と募金しやすい値段設定などにより、好評を得ています。1店舗当たりの募金額が減少しても、より多くの方々が協力してくださることで、大きな力になっています。引き続きお力添えをいただけましたら幸いです。

メンバーによる手づくりの募金促進グッズ



本革製のマウスパッド



本革製のコースター



本革キーホルダー



サンキャッチャー



手彫りハンコの絵葉書



鯨バッジ (協力作家さんによる作品)



いろいろな革小物

第12回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

収支報告

- ・準備(無償/購入)器数 : 約2500点 (うち提供数: 800個)
- ・協力作家数 : 約100名(HPへの非記載分含む) + ポーセラーツでの協力作家、生徒さん
- ・協賛店数 : 58箇所(2017/3時点)
※協賛店: 当支援の趣旨に賛同いただき、募金箱やメンバーの募金促進グッズの設置協力をいただいているお店、募金促進グッズ用の革、器などをご提供いただいているお店など

収入(募金分 + 繰越分)

- ・合計(3/11時点) : 211,163円 (236,305円)
- 募金額内訳
 - 個人 : 91,000円(うち振込み76,000円)
 - 協賛店 : 120,163円(陶器市やイベントでの募金含む)
 - 繰越金(第11回) : 25,142円

支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- ・合計 : 212,856円
- 内訳
 - 作家への支払い : 77,252円
 - グッズ製作費/募金推進用材料費
(ボード/募金箱、募金促進用缶詰、郵送費、器着払送料など) : 135,604円

23,449円(第13回へ繰越)

チャリティー陶器市での収入(商店街での器販売分)

- ・合計 116100円

売上は出店料14,000円を除く全額(102,100円)を、南相馬市へ寄付し、今後の復興に使っていただくこととしました。

・その他

(宿泊費@7名 計37,800円 : 全てメンバー自費
また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)

今回は南相馬市の方々のたくさんの笑顔を見ることができました。

プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第12回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。震災から6年、時間の経過とともに支援の熱が冷めてゆく中、協賛店や作家、メンバーの広がりや各地からの支援の輪が繋がり、これまで同様に継続、開催することができました。(今回も多くの作家さんから無償提供のご支援をいただきました。)

この活動を続けてきて様々な現地の現状、人々の感情の変化などを見てきました。仮設住宅の居住期間の延長措置とともに、復興住宅への引越しも進んでいます。また再起した地元商店などの物産販売の全国ネット展開や新たな付加価値を付けた商品開発など、以前では想像もしなかったであろう大きな変化も生まれています。震災があったからこそ新しい挑戦がたくさん生まれていて、明るい兆しも実感として感じています。東北のひとびとの持ち味である、決してあきらめない心と日本の多くの秀逸な技術力が合わさって危機をチャンスへと活かす動きが広がっていると思います。

今回初めて福島での開催となりましたが、津波だけでなく原発による被災した方々に対し、どのような支援のかたちがいいのか、新たな模索が始まったと思っています。小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しく願いいたします。

手づくり支援プロジェクト 光房みち

第12回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



・第12回お届けメンバー

吉田弘道	鈴木祥子	矢川士郎	井上直樹/涼子
小嶋秀忠	浦田健太	山脇琢磨	久木田日夏/紀美/陽樹/明琳
小田切ようこ/ゆうこ		木村つよし/奥様/かな/あかね	

・協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	Masa
阿久津雅士	梶山友里	坂本光永	成田真澄	増渕葉子
岩見晋介	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	増永典子
池上暁生	加藤博史	佐藤敬	野水美里	松下曜子
伊佐名美子	加藤弓	茂野俊也	長谷川奈美	松下忠生
石嶋哲彦	加藤喜道	清水秀輝	蓮見かおり	松本歳郎
いちかわ清美	川崎萌	荘司武臣	原泰弘	豆腐なる美
伊藤ヨリ	川島郁朗	菅谷太良	樋口早苗	三戸綾乃
大塚温子	上條富子	薄田いと	平泉志津子	溝口丈
大津広子	川又和子	ヅェルイブガール	平松龍馬	宮島将實
奥住久雄	岸タカコ	関口洋平	福地綾子	棟方美峰
小野悦子	北川チカ	関口まきこ	福田惣一	もときみちこ
おぬきなつ	木村世傑	関川佳古	福山龍之介	
岡本芳久	国友武志		藤田安雄	吉澤奈保子
岡本有希子	桑川通治	瀧昭典	藤井美香	アソレイヴ
岡田直恵	倉前幸徳	長豊陶苑	杵かかり	若菜綾子
岡部耕太郎	栗原節夫	豊田雅代	堀水小夜	渡辺キ工
おとがわさとこ	桑原純	陶遊舎谷口	堀水達雄	渡辺六郎
尾関翼郎	後藤義国	戸塚佳奈		渡辺克典
	近藤康弘			その他多数

・協力作家(ポーセラーツ)

全国(関西、関東、九州など11か所)の教室/インストラクター、生徒の方々より、多数の作品のご支援をいただきました。

・支援してくださった多くの方々

協賛店(次項)の方々、メンバーゆかりの多くの皆さま、職場の皆さま、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社

- ・協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

Company

ジョイコム株式会社
ソフトバンク インターパーク宇都宮
ソフトバンク宇都宮東
ソフトバンク宇都宮鶴田
ソフトバンク鹿沼
ソフトバンク古河
ソフトバンク真岡
ソフトバンクヨークタウン大平

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと
作家館 つかもとギャラリー
つかもと記念館
株式会社 日本ヴォーグ社
国際医療福祉大学病院
EX-サービス株式会社

Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE
Cafe R hana
QupuQupu
Café KENZOSUN
益古時計
GALLERY TAS TAS
CAFE CENTRO
作坊 吃(ゾーフアンチー
イチトニブンノイチ
ミハシカフェ

Select Shop

ハナムグリ
GOURD+m
うつわ坂
アートショップ向井
相玄窯の店 木洩れ日
仁平古家具店
益子 第二倉庫
釉日
陶のね

Beauty

PESCA-COCCA
Handmade soap SQUAMISH
salon kyoko
minoriori美容所
UppityCovo
hair Labo natura
Ripple Marks HAIR
seal hair work

Education

バナナキッズ (英会話教室)
雀宮校、戸祭校

Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須
NAO テニスクラブ

Food

pain de masha masha and coffee
パン茶房 小梅堂
ぱんとおかし ノアン
食工房NO-RA
とらっとりあ天野
Taverna Sakurai
銀座園
サン・クリストフォロ
Bis-t-eria Meli-Melo
TORATTORIA da RIOBA
鮭暁
Conifers
らー麺 藤原家

ホイッスル用の革を提供していただいています。
Special thanks!

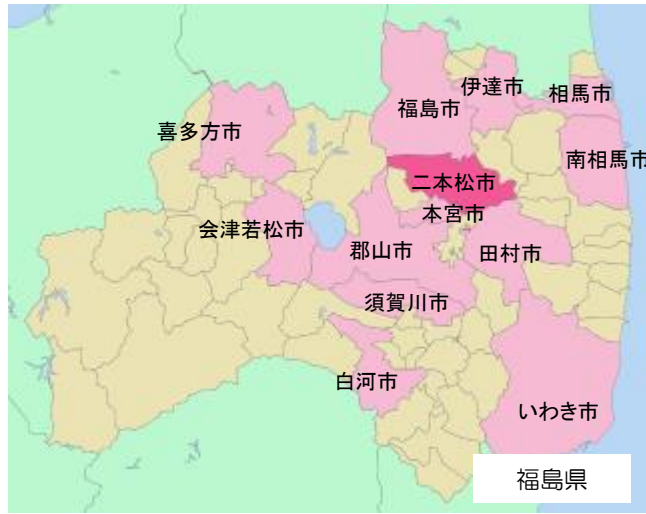
オーダーメイド靴
銀座てつじ屋

レザークラフト
井戸辰ドットコム
READY OR ORDER
石井裁断所
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ
株式会社クイーポ

第13回手づくり支援プロジェクトについて

第13回は自治体のニーズやイベントのタイミングなどと調整しながら検討を進めてゆく予定ですが、年末に開催される二本松(旗まつり)を検討しています。福島県では原発の影響により、これまでの岩手、宮城の沿岸部とは状況が異なり、多くの仮設住宅が内陸部に位置しています。二本松市は仮設住宅の最も多く集中する地域です。



開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。
引き続きみなさまのご支援、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込
足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334
口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら

作家さんと第12回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト
<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト
手づくりの器を直接被災地へ届けよう

